

2017年12月改訂
貯法 2～8℃の暗所

動物用医薬品

動物用生物学的製剤
劇薬 要指示医薬品 指定医薬品



917529

鶏伝染性気管支炎生ワクチン

IB生ワクチン 「BI」H120

承認指令書番号 17消安第12904号

販売開始 2000年 6月

【本質の説明又は製造方法】

このワクチンは、弱毒鶏伝染性気管支炎ウイルスH120/LF2/754-15株を発育鶏卵で増殖させ、その感染尿膜腔液に安定剤を加え、凍結乾燥したものである。乾燥生ワクチンは、淡灰黄色の乾燥物であり、溶解すると淡黄色の均質な懸濁液となる。

【成分及び分量】

1バイアル(1000羽分)中

成 分		分 量
主 剤	発育鶏卵培養弱毒鶏伝染性気管支炎ウイルスH120/LF2/754-15株	10 ^{6.5} EID ₅₀ 以上
	マンニトール	56 mg 以下
安定剤	カゼイン加水分解物	56 mg 以下

カゼイン加水分解物は牛の乳由来成分である。

【効能又は効果】

鶏伝染性気管支炎の予防

【用法及び用量】

1) 飲水投与

乾燥ワクチンに少量の飲用水を加えて確実に溶解した後、更に日齢に応じた量の飲用水に溶かして飲水投与する。

2) 点鼻又は点眼接種

乾燥ワクチンに少量の滅菌精製水(日局)を加えて溶解し、更に1滴が1羽分となるように溶解し、点鼻又は点眼する。

【使用上の注意】

(基本的事項)

1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。

(使用者に対する注意)

- 作業時には防護メガネ、マスク、手袋等の防護具を着用し、眼、鼻、口等に入らないように注意すること。
- 作業後は、石けん等で手をよく洗うこと。

(鶏に関する注意)

- 本剤の投与前には健康状態について検査し、重篤な疾病を認めた場合は注射しないこと。
- 鶏が、次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、投与適否の判断を慎重に行うこと。
 - 発熱、下痢、重度の皮膚疾患など臨床上異常が認められるもの。
 - 疾病の治療を継続中又は治癒後間がないもの。
 - 明らかな栄養障害があるもの。
 - 他のワクチン投与や移動によりストレスを受けているもの。
- 本剤は定められた投与経路を守って使用すること。
- 同一鶏舎内の鶏には同時に投与すること。

(取扱い及び廃棄のための注意)

- 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
- 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 直射日光、加温又は凍結は品質に影響を与えるので、避けること。
- 使い残りのワクチン及び使用済みの容器は、消毒又は滅菌後に地方公共団体条例等に従い処分、若しくは感染性廃棄物として処分すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

本ワクチン成分の特徴

微生物名	抗 原		アジュバント	
	人獣共通感染症の当否	微生物の生・死	有無	種類
鶏伝染性気管支炎ウイルス	否	生	無	—

本剤のワクチン株は、人に対する病原性はない。

- 乾燥ワクチン瓶は、破裂するおそれがあるので、強い衝撃を与えないこと。
- 開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので、注意すること。

(鶏に関する注意)

- 移行抗体の高い個体では、ワクチン効果が抑制されることがあるので、幼若な雛への投与は移行抗体が消失する時期を考慮すること。
- 本剤の投与後、激しい運動は避けること。
- 本剤の投与後は、温度管理等に十分に注意し、移動などのストレスを与えないこと。
- 副反応が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
- 本剤には他の薬剤を加えて使用しないこと。
- 本剤投与前後24時間は、対象鶏への投薬や消毒剤の使用は避けること。

【取扱いに関する注意】

- (1) 本剤の溶解は使用前に行うこと。
- (2) 溶解後は速やかに使用すること。
- (3) 一度開封したワクチンは速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
- (4) 本剤調製時には、清潔な用具を使用し、各々の投与方法に定められた方法に準じて均一なワクチン溶液とし、雑菌などを混入させないようにすること。
- (5) 本剤の溶解及び投与は直射日光を避けて、涼しい場所で行うこと。
- (6) 本剤とニューカッスル病生ワクチンを同時に投与すると、ウイルス間の干渉作用により本剤の効果が抑制される場合がある。
- (7) 本剤の投与方法には、飲水投与法並びに点眼及び点鼻接種法があるので、以下に示す各投与方法の注意事項を守って正しく使用すること。
 - ・ 飲水投与する場合
 - ① 本剤は生ウイルスを用いているので、飲水投与に使用する飲水器は塩素を含まないきれいな冷水で洗浄すること。
 - ② 飲用水は、清水、井戸水などを用いること。やむを得ず水道水を使用する場合には、煮沸、汲み置き（一夜放置）又はチオ硫酸ナトリウム（ハイポ）0.01～0.02%（水1Lに対して0.1～0.2g）を添加することにより残留塩素を除去した後、使用すること。
 - ③ 希釈する飲用水への塩素剤、飲水消毒剤等ワクチンウイルスに害のある薬剤の混入は絶対に避けること。
 - ④ 鶏に均一にワクチンを投与するために、ワクチン投与前の2～3時間絶水し、日齢・気温に応じてワクチン溶液を1～2時間で飲み終える量に加減し、ワクチン溶液が完全になくなってから通常の飲水にもどすこと。
 - ⑤ 鶏に均等にワクチンを投与するために、全部の鶏が均等に飲めるように十分な給水器を準備すること。
 - ⑥ 本剤の溶解及び希釈時には、金属容器は使わず、プラスチック容器を使用すること。
 - ・ 点鼻又は点眼接種する場合
 - ① 点鼻又は点眼に用いる器具は、適切な投薬器を使用すること。
 - ② ワクチンを接種する際には、鶏を保定する手指を消毒し、鶏の眼に触れないこと。
 - ③ 投薬器の先端部が、鶏の眼瞼に接触すると、菌の二次感染の原因になるので注意すること。
 - ④ 点鼻又は点眼時には、1羽当たり1滴ずつ確実に点鼻又は点眼し、ワクチン液が鶏の鼻孔あるいは眼に吸収されるのを確認すること。

【最終有効年月】

ラベルに表示

【包装】

IB生ワクチン「BI」H120 1000羽分×10本

【製品情報お問い合わせ先】

ペーリンガー・インゲルハイム アニマルヘルス ジャパン株式会社
〒141-6017 東京都品川区大崎2-1-1
TEL：03-6417-2800

【販売元】

 **日本全薬工業株式会社**
ZENOAQ 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

【製造販売業者】

 **Boehringer Ingelheim** ペーリンガー・インゲルハイム
アニマルヘルス ジャパン株式会社
東京都品川区大崎 2-1-1

獣医師、薬剤師等の医療関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発症に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>) にも報告をお願いします。